

「複雑型熱性けいれんにおける中枢神経感染症の発生頻度と早期再発作の予測因子」

【はじめに】

熱性けいれんは小児でもっと多いけいれんの原因です。熱性けいれんはその発症様式から単純型と複雑型に分類され、全体の20-35%が複雑型です。日本の熱性けいれんのガイドラインでは、複雑型熱性けいれんの場合は中枢神経感染症の可能性を考慮し入院経過観察が推奨されています。しかし単純型熱性けいれんとして一度帰宅した後に約15%の患者が再度けいれんし複雑型熱性けいれんとして入院しています。また複雑型熱性けいれんのうち中枢神経感染症の割合は0.3-0.7%であり、入院管理が必要かどうか、意見が分かれています。今後の複雑型熱性けいれんガイドライン作成に役立つため、当院において熱性けいれんで来院した症例を比較検討し、複雑型熱性けいれんで入院した症例の中枢神経感染症の発生頻度と熱性けいれんの早期再発作の予測因子を検討しました。

【対象】

2011年1月-2021年12月に熱性けいれんで当院救急搬送された6-60か月児

【研究内容】

1. 診療録から研究に必要な臨床情報を個人が特定できない形で匿名化し抽出します。収集するのは患者さんの治療過程で得られたデータであり、新たな負担はおかけしません。
2. 小児の熱性けいれん患者において、髄膜炎や脳炎を持つ頻度と24時間以内にけいれん発作を再び起こすことを予測できる因子を明らかにします。

【個人情報の管理について】

本研究は「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って実施します。個人情報の漏洩を防ぐため、臨床研究に関する氏名等の個人情報は削除し、第三者が個人情報を閲覧できないようにしております。

また、本研究の実施過程、および結果の公表（学会発表、論文発表）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれないように配慮しています。

尚、本研究に情報を利用することをご了承いただけない場合には研究対象と致しませんので、下記連絡先までお申し出ください。

【研究期間】

倫理審査委員会承認日より令和4年9月30日迄

【医学上の貢献】

この研究を行うことで中枢神経感染症の患者の早期診断、再発作の予測、不必要な入院の減少が期待されます。

【連絡先】

国立病院機構 別府医療センター 小児科

責任者：氏名 古賀寛史

担当者：氏名 梶原健太

連絡先：〒874-0011 別府市大字内かまど 1473 番地

電話：0977-67-1111 FAX：0977-67-5766